

今日のところの主イエスの言葉を理解するために、ここで「仮庵祭」について確認しておく。仮庵祭は、イスラエルがかつてエジプトを脱出した際、40年間も荒野を放浪したことを想起する祭りである。彼らはその時、仮庵（天幕、テント）を張りながら荒野を移動していた。その時のことを想起するために、8日間続く祭りの間は庭や野原に粗末な仮小屋を建ててそこに寝泊りした。

荒野の40年間、イスラエルの民は、天から与えられるパン（マンナ）によって飢えをしのいだ。そして体の渇きに必要なた「水」は、神がモーセを通し岩から水を出すという奇跡を通し与えられた。そのことを記念し、感謝する祭りが仮庵祭である。

やがてイスラエルの荒野放浪時代が終わり、彼らの多くが農耕民として生き始めた時に、この祭りは秋に行われる収穫感謝祭の要素を取り入れ、同時に農業にとって必要不可欠な水を求める、いわゆる「雨乞い」の祭りという要素も入ってきた。

以上のことから分かるように、この祭りで決定的な役割を果たすのは「水」である。祭りの最終日、祭司は金の器をもってシロアムの池（ヨハネ9:7参照）に水を汲みに行く。祭司の後には、仮庵を作る材料である棕櫚の木の枝や収穫の実りであるレモンの木の枝を両手に持って掲げた群衆がついて行く。その時、彼らは、**「見よ、わたしを救われる神。わたしは信頼して、恐れぬ。主こそわたしの力、わたしの歌、わたしの救いとなってくださった。あなたたちは喜びの内に救いの泉から水を汲む」**というイザヤ書12章2、3節の言葉を暗唱する。

それから行列は、水を汲んだ祭司を先頭にして口々に“ハレルヤ詩編”（詩編113篇から118篇）の言葉、**「ハレルヤ、主を賛美せよ」**と歌いながら神殿に帰ってくる。そして、**「どうか主よ、わたしたちに救いを（ホサナ）。どうか主よ、わたしたちに栄を」**（詩編118:25）と叫びながら祭壇の周りを7回まわる。その上で、祭司が、汲んで来た水を祭壇の西の隅に設けてある銀のじょうごに注ぐ。その水は地下の淵に達して、それが巡って天から雨を降らせると信じられていたのである。

37節。 **「祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。『渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。』」**

仮庵祭における「水汲み」の儀式には、もう一つの意味がある。そのことを語っているのが、ゼカリヤ書第14章8節以下。14章1節には**「見よ、主の日が来る」**とある。そして14章には繰り返し**「その日」**という言葉が出てくる。「その日」とは「主の日」のこと。それは主なる神の全世界に対するご支配があらわになり、実現するこの世の終りの日であり、神の民であるイスラエルの救いが完成する日である。その日に起ることがここに語られている。その16節にこうある。**「エルサレムを攻めたあらゆる国から、残りの者が皆、年ごとに上って来て、万軍の主なる王を礼拝し、仮庵祭を祝う。」**

世の終りには、敵対していた全ての国の者たちがエルサレムに上って来て主なる神を礼拝し、仮庵祭を祝う、という。世の終わりの主による救いの完成において、仮庵祭が祝われるのである。

このことと水汲みの儀式との関係は8節から分かる。

「その日、エルサレムから命の水が湧き出で、半分は東の海へ、半分は西の海へ向かい、夏も冬も流れ続ける。」

主の日、世の終わりの救いの完成の日に、エルサレムで仮庵祭が祝われ、そのエルサレムから夏も冬も尽きることのない**「命の水」**が湧き出で、世界を潤していく。水汲みの儀式において神殿の祭壇に注がれる水は、この**「命の水」**を表している。

仮庵祭はこのように、収穫感謝祭であるだけでなく、**「命の水」**を待ち望む祭でもあった。その仮庵祭が最も盛大に祝われる終わりの日に、主イエスはこのように言われたのである。37—38節、

「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」

仮庵祭にエルサレムに来ていた多くの人々は、神殿で行われる水汲みの儀式を見るために来ていた。彼らの願いは、世の終わりにエルサレムから**「命の水」**が流れ出る、というゼカリヤ書の預言の成就である。

その**「命の水」**を待ち望んでいる人々に向かって主イエスは、「わたしのもとに来なさい、わたしこそがあなたがたに生きた水を与える」とお語りになったのである。

「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。」

この言葉はイザヤ書55章1節に基づいている。

「渴きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。銀を持たない者も来るがよい。穀物を求めて、食べよ。来て、銀を払うことなく穀物を求め、価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。」

主なる神が、渴きを覚えている者をご自分のもとに招いて水を与えようとしておられることがここに語られている。ここで大事なのは、**「銀を持たない者も来るがよい」**とされていることである。主なる神は、**「銀を払うことなく」「価を払うことなく」**、つまりタダで、ぶどう酒と乳とを与えて下さるのである。この神のみ心に基づいて、主イエスも、**「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい」**と言われる。**「だれでも」**とある。主イエスは誰にでも、タダで、生きた水を飲ませて下さる。この水を飲むのに、特別な資格など必要ない。渴いている人なら**「だれでも」**、主イエスのもとに来て、生きた水を飲むことができる。そのためにただ一つ必要なことは、**「わたしのところに来る」**こと。この水を求めて主イエスのところに来さえすれば、主イエスが恵みによって生きた水を与えて下さる。

38 節。 **「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」**

主イエスのところに来るとは、**「わたし（主イエス）を信じる」** ことである。主イエスが生きた水を与えて、渇きを癒して下さることを信じて、主イエスにその水を求めること、それが主イエスを信じることであり、それによって人は主イエスのもとに来ることができる。

「聖書に書いてあるとおり」 とあるのは、ゼカリヤ書 14 章 8 節のことであり、イザヤ書 58 章 11 節をあげることもできる。

「主は常にあなたを導き、焼けつく地でああなたの渇きをいやし、骨に力を与えてくださる。あなたは潤された園、水の涸れない泉となる。」

ヨハネによる福音書 4 章 13、14 節。主イエスがサマリアの女に語った言葉。

「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

39 節。 **「イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、“霊”がまだ降っていなかったからである。」**

参考までに、ここに 2 二度「**“霊”**」という言葉が出て来る。このような“”は原文にはない。これは新共同訳聖書において、「**霊**」という言葉が明らかに「**聖霊**」を意味している場合に付けられている記号である。

「イエスは、御自分を信じる人が受けようとしている“霊”について言われたのである」。この言葉は、38 節で主イエスが言われた約束は、主イエスを信じる人々が受けようとしている聖霊が降ることによって、その聖霊の働きによって実現するのだ、ということ語っている。

聖霊を受けることによって、主イエスからの命の水をいただくことができる。そしてこの時点ではその聖霊がまだ与えられていなかったため、38 節の主イエスの言葉も、**「その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる」** という、これから起るこの約束として語られたのである（【NKJV】 "He who believes in Me, as the Scripture has said, out of his heart will flow rivers of living water."）。

その聖霊はいつ与えられるのか。

「イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、“霊”がまだ降っていなかったからである。」

この言葉によると、主イエスが栄光をお受けになる時こそ、主イエスを信じる人々が聖霊を受ける時である。その時はいつなのか。この先の 17 章 1 節に、その時が来たことが

語られている。「イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。『父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。』」

この後、18章から主イエスのご受難の話が続く。17章はそのことを覚えつつ主イエスが弟子たちのために祈られた「執り成しの祈り」である。つまり「時が来ました」というのは、主イエスが十字架にかけられて死ぬ時がいよいよ来た、ということ。主イエスが父なる神から栄光を受けるのはその時である。

十字架の死から三日目に主イエスは復活された。そして、その日の夕方、弟子たちの前に現れ、弟子たちに息を吹きかけて、こう言われた。

「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

ヨハネによる福音書では、聖霊降臨は、復活された主イエスはその日の夕方弟子たちに息を吹きかける時である。これは、使徒言行録の聖霊降臨（主イエスが復活してから50日後、天に上げられてから10日後）とは異なる。

主イエスは弟子たちに息を吹きかけて、「**聖霊を受けなさい**」と言われた。主イエスが栄光を受けるときに降ってくる命の水である霊が、今こそ主イエスに降り、そして主イエスの体から弟子たちに流れ出ている。そして、その聖霊を受けた弟子たちは、主イエスが天の父から派遣されたように、この世へと派遣される。何のために？彼らを与えられた罪の赦しを世の人々に与えるため。